

氏名	松井 美由紀
授与した学位	博士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博甲第5517号
学位授与の日付	平成29年3月24日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	セカンドオピニオンを受けた女性乳がん患者の初期治療選択過程
論文審査委員	谷垣静子 教授、猪下光 教授、松岡順治 教授

学位論文内容の要旨

研究目的は、セカンドオピニオンを受けた女性乳がん患者の初期治療選択過程を明らかにし、看護実践への示唆を得ることである。セカンドオピニオンを受けて初期治療選択をした患者 24 名を対象とし、半構造化面接にてデータ収集し、修正版クラウンデッド・セオリー・アプローチの手法を用いて分析した。その結果、患者の初期治療選択過程は、『疑念が拡がる』および『疑念が晴れる』をコアカテゴリーとする過程であった。『疑念が拡がる』過程の概要は、【乳がんに命をもっていられる】との危機感から始まり、【治療法選択の決め手が見つからない】を経てセカンドオピニオンを受ける決意をする過程であり、『疑念が晴れる』過程の概要は、セカンドオピニオンを受けた後、【先の見通しが立ち腹をくくる】ことができ、【医療者の力で混迷から脱却する】ことで初期治療選択に至る過程であった。これらから、日常生活支援者としての看護師が、セカンドオピニオンを受ける前に患者への面談を通して、セカンドオピニオンを求めた過程の把握とそれに応じた支援の必要性が示唆された。

論文審査結果の要旨

本論文は、セカンドオピニオンを受けた乳がん患者の初期治療選択過程を明らかにした論考である。乳がん患者24名を対象に半構造化面接にてデータ収集し、修正版クラウンデット・セオリー・アプローチの手法を用いて分析している。

その結果、患者の初期治療選択過程は【疑念が拡がる】および【疑念が晴れる】をコアカテゴリーとする過程であった。【疑念が拡がる】過程の概要は「乳がんに命をもっていられる」を経てセカンドオピニオンを受ける決意をする過程であり、【疑念が晴れる】過程の概要は、セカンドオピニオン後「先の見通しが立ち腹をくくる」ことができ「医療者の力で混迷から脱却する」ことで初期治療選択に至る過程であった。

本研究から導き出された知見は、【疑念が拡がる】過程に含まれた「これまでの生活を維持できる治療法を模索」であり、日常生活支援者として看護師が見逃してはならない結果と言える。導き出された内容は、今後、乳がん患者の初期支援において、実践有用性が大いに期待できる。

本研究の限界としては、一施設から得られたデータに基づいて分析をしているため、一施設が有する特徴を受けている可能性がある。

本論文は、今後の看護学における実践・研究の発展に寄与する学術的価値を有しており、岡山大学大学院保健学研究科博士後期課程の博士号（看護学）に値するといふ結論に達したので報告する。